

善照寺
寺報

ぜんしゅうじ

第15号

〒272-0131 市川市湊十八番一十号 善照寺
電話 四七(三五七)二二三二
FAX 〇四七(三九七)一三三二

暑中お見舞い申し上げます

善照寺住職 今岡達雄

暑中お見舞い申し上げます。

毎日暑い日が続いています。

皆様お元気でお過ごしでしょうか。さて、昨年の寺報を見ていたら、去年は猛暑で七月二十日は三十九・五度という記録的な暑さだったと書かれています。去年の暑さなんてもうすっかり忘れて、今年も毎日暑いです。すねなんていつています。

昨年は「さるすべり」が早くに満開になっていたのですが、今年は「うどんこ病」といって葉に白いカビのような菌が付き勢いありません。同じ夏とはいつても、毎年違うんだと改めて気づかされました。

そういえば、最近とくに気候

の変化が大きくなってきたような気がします。また最近、大きな地震もありました。自然の力あなどり難いです。気を引き締める必要があります。今年も施餓鬼法要を行います。宜しくお願ひします。(合掌)

施餓鬼会

八月十七日(水)

午後一時 法話

午後二時 法要

お塔婆の申し込みはお早めに

施餓鬼法要のご案内

皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。さて、善照寺におきましては毎年八月十七日に施餓鬼法要を行っております。施餓鬼法要は、

- (一) 施餓鬼供養を志される方々の健康祈願
- (二) 餓鬼供養の功德を新盆の霊に振り向ける新盆供養
- (三) 餓鬼供養の功德を有縁の霊(先祖代々や父母子供など先に亡くなった方々の霊)に振り向ける塔婆供養

のために行っております。お忙しいとは存じますが是非ともご参加されるようお願い申し上げます。善照寺の施餓鬼法要は午後一時から始まります。一時から法話、二時から法要になります。法要が終わると御供物が配られ、お塔婆が並べられます。毎年、参加される方々の出足が遅いのが悩みの種です。ぜひとも一時からの法話からお集まり下さい。お願い致します。

記

一、日時 平成十七年八月十七日(水曜日)

午後一時より 法話

午後二時より 法要

一、場所 善照寺本堂

なお、施餓鬼法要への出欠、お塔婆の申込は八月十日までにお願ひします。また、ご都合が悪くて出席できない場合にもお申込みをいただければご供養いたします。その場合には塔婆料(四千元)と供養料あわせて一万円程度をご郵送下さい。

善照寺住職 今岡達雄

合掌

住職法話

おぼんの話

『孟蘭盆経』という教典があります。「おぼん」の供養はこの教典にならって行われます。

このお経によるとお釈迦さまの十大弟子のひとりである目連尊者が、厳しい修行によって何でも見通せる神通力という力をも身につけました。そこで今は亡き母親がどのように暮らしているかを見ようと思いました。天界、人間界と上位の世界から探し始めました。しかしどの世界にも亡き母は居りません。畜生界を経て、餓鬼界にいたって、餓鬼となつて苦しんでいる母親を見つけたのです。

目連尊者は母親を救わんとし、神通力をもってご飯を母親に盛ってみたのですが、ご飯は母親が口に入れる前に炎と化してしまい、母親はついに食べる

ことができませんでした。目連尊者はこれを大いに悲しみ、お釈迦さまに母親を救う道をおたずねになりました。お釈迦様がおっしゃるには、母親の罪根があまりにも深いので目連尊者の力だけではどうすることもできない。そして次のようにお説きになりました。

「雨安居開けの七月十五日には、たくさんのお僧が一堂に集まり仏道の修行を行う。この日にたくさんのご馳走を諸仏衆僧にお供えして、七世父母のために苦をばらばら、楽を与えてくださるよう回向をたのみなさい。たくさんのお僧が心から唱える回向の功德は広大無限であるから、現存する父母は百歳の寿命を保ち、今は亡き七世の父母は餓鬼道から救われるであろう」。目連尊者は喜び勇んで教えられた通りに諸仏衆僧にご供養して、七世の父母に報恩追善の誠を述べ、無事、餓鬼道にあった母は救われたということでした。

お盆の迎え火・送り火・供物です。ですから仏教ではこの説話にちなんで先祖供養のためにお盆の行事を行います。お盆の行事には、人間の美しい心、そして思いやり、いつくしみの心がこめられています。今は亡き先祖父母が、生家にもどつて来てくださるのです。「どのようにお迎えしようか。どのようにおもてなししようか。」と心を寄せ合うところにお盆の行事の出発点があります。

昔は十二日になると盆市が立ちました。ここで精霊棚をかざるマコモ・盆花・オガラ等や、お供物をそろえました。そして精霊棚を作ります。

十三日の夕方になると、墓地に近い家では墓参りして盆提灯に火をつけお迎えしてきます。墓地から遠い家では亡き精霊がわが家に帰り来るのに道に迷わないようにとの願いのもと、庭先とか玄関先で「迎え火」をときます。同時に精霊棚にはお

供物を供えます。精霊が、馬に乗り、牛に荷物を背負わせてお帰りになるといふ言い伝えから、キュウリやナスに割箸の足をつけ、とうもろこしの毛を尾にして牛や馬の形を作ります。

また季節の野菜、果物を供えます。そして十四日にはソーメン、十五日には団子を供え、このほかにイモの葉の上にナスやキュウリを賽の目に切り洗米とまぜミズノコを作り、別の器には水を入れ、みそ萩の箸で供物にそそぎます。これを百味飯食といつて、一切有縁、無縁の精霊に供物を供える意味があります。そして盆中には、檀那寺の僧侶が棚経をあげに訪れます。行徳では十五日の夕方がお送りです。盆提灯に火をいれて墓地までお送りします。遠方の場合には「送り火」をたき、その一すじの火に「どうぞ、ご無事に本座にお帰りください」との願いをたくし、最後に火を消すのです。

(住職談)

住職法話

おせがきの話

「あれもほしい、これもほしい・・・。」自分の利益を思う心の強かった者が生まれ変わるころが餓鬼の世界です。ここでは、常に飢えと渇きに苦しんでいます。

あるとき阿難尊者が瞑想行を行っていましたが、その耳元に餓鬼が現れこう囁きました。

「阿難、あなたの命はあと三



日、そして餓鬼になるのだ」と。驚いた阿難尊者がお釈迦様に相談したところ、餓鬼を供養する方法（施餓鬼供養法）を教えられてきました。この供養を行つたところ、餓鬼達はすべて満腹し、阿難尊者は三日の命が長寿となつたそうです。

さてこの説話は、仏教においては、悟りを得るといふ目的の他に、布施という行が極めて大切であることを示したものです。つまり、自分のためだけに修行をしていた阿難尊者に、それだけでは充分ではなく、利他の行（他人の身になつて行う行）、布施の行（見返りを期待しない無償の奉仕行）が必要であることを示したものです。

正直なところ、私たちも毎日毎日、自分のことだけで精一杯、とても他人様のことなんて考える余裕は有りません。だから年に一度くらいは布施の行を行うのです。それが施餓鬼会法要です。

ぼんせがき

八月といえば「おぼん」「おせがき」です。「おぼん」では目蓮尊者の母親の餓鬼供養にちなんで、先祖代々や先になくなつた夫や妻や子供達など皆様に縁のある諸霊の供養を行います。「おせがき」は阿難尊者の餓鬼供養ですから皆様方に縁のない餓鬼の供養を行います。

有縁と無縁、つまり自利の供養と利他の供養を行うのです。そうするとそれぞれの供養の功德が、供養するあなた自身の健康、あなたが志す新盆霊位や先祖代々そしてあなたより先に亡くなつた父母やお子様達にその功德が振り向けられるのです。

だから善照寺の法要は「おぼん」と「せがき」を合わせ技一本で行う「ぼんせがき」なのです。本年も八月十七日（水）一時から「おせがき」法要を行います。皆様お時間の許す限り、お集まり下さいますようお願い申し上げます。



善光寺団体参拝

我が善照寺には「慧日会」という青年会があります。青年というには年を取った会員も多いのですが、寺の仕事を手伝って

「牛に引かれて善光寺まいり」という言葉があるように、第一



回目にはふさわしいのは善光寺様というところで、秋に善光寺団体参拝を計画しました。バス一台で計画しましたので、募集人員は二十名です。日程、参加費用は左記の通りです。

日程

- 十月一日(土)
 - 九時 善照寺出発
 - 十二時 懐古園(昼食)
 - 十七時 善光寺
- 宿泊 淵之坊(僧坊)

十月二日(日)

- 六時 善光寺(お朝事)
- 十一時 上山田温泉
(入浴・昼食)
- 十四時 フルーツ狩り
- 十九時 善照寺着

参加費 一名様三万五千円

参加者数に余裕がありますので一般檀信徒皆様の参加を募集いたします。詳しくは寺まで。

参加者募集中

善光寺の団体参拝

この団体参拝は、一般の観光で善光寺に行くのとは違って、宿坊(宿のある寺)に宿泊し特別な催しが計画されています。

お数珠頂戴

善光寺のご法主が、善光寺本堂にお上り、またお屋敷にお戻りになる際に、参拝者の辛せを願って、手にされているお数珠で頭をなでてください。

お朝事参加

善光寺本堂で毎朝行われる勤行に参加します。ご法主が導師となつて勤行が行われます。

また、それぞれの参列者のご家庭のご先祖様のご回向や、家内安全などのご祈願のお経も、善光寺本堂であげていただくことができます。これには宿坊である淵之坊様のお取り次ぎで行われます。ご回向料は一霊分が参加費に含まれています。

信州 善光寺 淵之坊

淵之坊

ふちのぼう



お戒壇めぐり

善光寺のご本尊、一光三尊阿彌陀如来様は秘仏でいらつしやいます。ご本尊様をお祀りしてある本堂の瑠璃壇の下の暗間の回廊を巡り、ご本尊様の真下にかかる如来様お身代わりの「極楽のお錠前」に触れることで、善光寺如来様とご縁を結んでいただくのがお戒壇巡りです。この極楽のお錠前に触れることができた人は、必ず極楽往生できると、信仰されています。

以上